

ディベート

1. 教育的ディベートとは

一つの論題に関して、肯定側と否定側に分かれ一定のルールに従って議論し、それを第三者（聴衆あるいは審判）が、いずれの側がより説得力のある主張を展開したかの判定を下す公開討論会。

教育的ディベートは3,000年前からある。

知的討論でもっとも進化したコミュニケーション型式といわれる。

原則として勝敗を左右するのは、論理であり、自分の主張の正しさを立証し、相手を言い負かすこと。証明なき議論は無効である。

2. 型式

I T Cでは オックスフォード式（伝統型） / オレゴン式（尋問型）
肯定・否定2人ずつの2人制、他3人制、5人制などがある。

実社会では 特別・法廷・議会・非公式などにおけるディベート。

3. 準備

- ①論題を決める。
- ②ルールを決める。（そのときの状況や目的に合うように設定する）
- ③ディベーター（肯定側と否定側）を選ぶ。
- ④審査員を決める。あるいは聴衆全員としても良い。
- ⑤対戦フォーマットを作成。
- ⑥審判用シート作成。

4. 論題を選ぶ条件

- ①話題性のあるもの。
- ②中心課題は一つであること。
- ③感情的表現・抽象的な表現は避ける。
- ④一方に有利にならないようにする。
- ⑤〇〇すべきである（立証責任を持つ肯定側が主張できる表現）とする。

5. 審査の項目

審査表（バロットシート） チェック項目はそれぞれ教育目的や参加者のレベル、試合の形式に合わせる。

<u>思考内容</u>	分析力・・・問題の所在をどこまで深く捉えているか。 論理性・・・組み立てた意見に論理的矛盾、飛躍、不備はないか。 立証性・・・主張がエビデンスでどこまで立証されているか。 反駁・・・相手に対してどれだけ攻撃や反論をしているか。 構成力・・・限られた時間内に意見がまとめられているか。
<u>話し方</u>	言葉遣い・・・適切で簡潔な言葉が使われているか。 身振り・・・自然で効果的か。 説得性・・・聴き手を納得させる雰囲気作りはできているか。 聴衆への対応・・・聴衆の反応に十分対応しているか。
<u>質疑応答</u>	質問内容・・・質問の意図は明確で有効か。 応答内容・・・質問に適切な回答をしているか。 マナー・・・対戦相手や聴衆に対して失礼な行動はないか。
<u>その他</u>	チームワーク・・・チーム全体で協力して試合を進めているか。

6. 時間配分 (例)

- 伝統型ディベート (オックスフォード式・肯定・否定の2人制の例)
 - ①立論1 第1スピーカー 肯定 5分・ 第2スピーカー 否定 5分
 - ②立論2 第3スピーカー 肯定 5分・ 第4スピーカー 否定 5分
 - ③反駁1 第1スピーカー 否定 3分・ 第2スピーカー 肯定 3分
 - ④反駁2 第3スピーカー 否定 3分・ 第4スピーカー 肯定 3分
- 尋問型ディベート (オレゴン式)
 - ① 立論1 肯定 10分・尋問 否定 3分
 - ② 立論1 否定 10分・尋問 肯定 3分
 - ③ 立論2 肯定 10分。尋問 否定 3分
 - ④ 立論2 否定 10分・尋問 肯定 3分
 - ⑤ 反駁1 否定 5分・反駁 肯定 5分
 - ⑥ 反駁2 否定 5分。反駁 肯定 5分

7. 論戦

はじめに論題の語句の定義を設定する。

一番目の立論は、必ず肯定側が行い、最後は肯定側の反駁で終わる。

- A. 故に、肯定側は論題の要求する事柄を十分に主張し、立証しなければ負けとなり、否定側の勝利となる。
- B. 否定側は妥当な代案を示すことが出来 (第1立論で述べる事柄・第2立論で出すと、肯定側は無視するか反駁の中で新しい立論をしなければならなくなる) 代案は肯定側と基本的に異なる点を含み、反論の証拠が十分あるものであること。

- C. 肯定側は否定側の要請があれば、提案を実施するときの方法や特色を説明する。 否定側が代案を示す場合も同様である。
- D. それぞれの見解は相手チームが立論の中で対応できるように早い段階で述べること。(第一立論)
- E. 最終反駁は肯定側の発言で終わるので、肯定側は最終反駁の前に、否定側の主な議論について反証しなければ肯定側のミスと判定される。否定側には発言の場がないからである。
- F. 裏づけの無い議論に対して相手チームはその旨指摘できる。

8. 審査の要点

- ①引き分けにはできない。甲乙つけがたいときは否定側の勝ちとする。
- ②論題に対する偏見と私見を持たない。
- ③ディベーターに個人的な感情を持たない。
- ④証拠の資料は豊富だったか。情報源を的確に述べたか。
- ⑤提示された証拠や推論から導かれた結論は有効だったか。
- ⑥立論は明確にのべられていたか。
- ⑦反駁は妥当であったか。
- ⑧効果的な話し方 即興性と口頭弁論に関する要領は良かったか。
- ⑨ディベートの展開の分析はどうだったか。
- ⑩ルールに違反したチームを罰する。

相手の反論が無ければ、議論の展開が下手でも下手な側が得点を得る。
どちらの論証力が優れているかを判定する。

参考資料：ITC教育特集 C28

教育的ディベート授業入門	中沢美依
やさしいディベート入門	松本道弘
これがディベートのやり方だ	松本道弘

2011/3/18 作成：常田道子